

手柄山温室植物園だより
シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

7. ツユクサ（ツユクサ科ツユクサ属）

Commelina communis L.

2014年8月

道ばたや畑でよく見られる1年草で、茎は這って途中立ち上がり分枝し、高さ20~50cmになります。葉は卵状披針形で長さ5~8cm、幅1~2.5cmで先はとがります。6~9月にかけて、苞の外に出て1個ずつ青色の花を咲かせます。花は早朝から咲き、午後にしぼむ1日花で、苞から次々出ます。名前の由来は朝露に映えるところからでしょうか。別名のアオバナは花の色、また、ボウシバナはつぼみを包んでいる2つ折りの苞が帽子に見立てられたのでしょうか。鮮やかな青色の花はかつて友禅染の下絵用の染料として利用されていました。これで下絵を描いても、水でさらせば消えるので上絵に影響しないことから重宝されました。当地域には似た種類にマルバツユクサ（*Commelina benghalensis* L.）があります。川沿いの河川敷や畦畔などの砂質地に生育し、葉は卵形で長さ3~7cm、幅2~4cmで先はとがらず、縁はやや波状になります。花は7~10月にツユクサより小さい青色の花を咲かせます。秋に多くの閉鎖花を地中につけるのが特徴です。本種は比較的少なく、生育範囲の狭い種類と思われます。



ツユクサ群落



ツユクサの花



マルバツユクサ



マルバツユクサの花